

山行番 NO. 1567  
日時 2013. 10. 18 (金) ~ 19日 (土)  
山域 甲斐駒ヶ岳 (2976m)  
標高差 上り 竹宇駒ヶ岳神社770m~七条小屋約2380m=約1610m  
下り 黒戸山トラバースから五合=約70m  
参加者 L後藤、浜道、掛橋 (先発)、勝又陽 (後発) = 4名  
タイム 下土狩発3:30-駐車場着5:45-駐車場発6:00-横手口分岐8:00  
-刃渡り9:35-五合目10:35-七条小屋11:47 (泊)

### 第1日目

先発組は前日から竹宇駒ヶ岳神社下の駐車場でテン泊。後発の私は3時起きで当日発、さすがに眠い。

6:00 駐車場出発。竹宇駒ヶ岳神社に寄り二日間の安全祈願をして登山開始だ。尾白川の清流にかかる吊り橋を渡り登山道に入るといきなり急な登りだ。この黒戸尾根は北アルプス烏帽子岳のブナ立尾根・上越 谷川岳の西黒尾根とともに日本三大急登のひとつのようだ。しばらくして緩やかになるがすぐまた急登!

7:25 一回目の休憩 お腹も減ってきた。延々と登りが続く。

8:00 横手駒ヶ岳神社からのコースとの分岐に出る、笹ノ平を通過し樹林の中をいい加減にしてくれと言いたくなるような長い登りがつづいているH嬢もK嬢も黙々と登って行く。ここは八丁登りというらしい。一昨日の台風の影響か青葉が一面に落ちている、どんぐりはまだ緑のまま落ちてしまっている。

9:00 二回目の休憩 気温5℃ 朝が早かったせいか多少バテ気味、皆について行けるか心配になってきた!

9:35 刃渡り。 尾根の両側が谷に深く落ちこんでいて転落防止の鎖がある、慎重に通過し登りの途中で下って来る女性一人の登山者に会う。話を聞くと頂上には雪が積もっているそうだ。急な登りを越えると (9:45) 刀利天狗 (2049m) に出る。祠や石仏・碑がたっている。ここから下って五合目小屋跡に出る、以前は



刃渡り





巖しい上り



古屋翁レリーフ

旧五合小屋跡



ここに山小屋があったらしい。古屋翁のレリーフが残っている。また、この尾根にはいたる所に祠や石仏がある、古くから信仰の山であったことがうかがわれる。10:35 三回目の休憩 ここで腹ごしらえをすませる。

ここからさらに急な登りとなり階段がつぎつぎと現れる。ほぼ垂直な岩場を梯子や鎖にすがって登る場所もある。女性陣は鎖場でかなり苦勞している。垂直な梯子ではザックの重さで後ろにひっぱられそうだ！ 途中、階段の点検をしているツナギ姿の男性に会う、七丈小屋の管理人で第一小屋ではなく第二小屋に入るよう指示される。



ご苦労様です。

細い尾根をトラバースするといきなり七丈第一小屋が現れる（11：47）第一小屋をパスし第二小屋に到着。ここで今日中に甲斐駒を越える案も出たが、時間を考慮し本日はここで終了となりました。ホッと緊張から開放された気分だ。

小屋からは雲海の上に鳳凰三山が良く見える。地藏岳のオベリスクがそそり立ち左の山際に富士山が寄り添うように見えている。

時間は早いが一日の疲れを癒す憩いの時間の始まりだ！ LのG氏はあしたか牛のヒレステーキを焼いている、私はつまみのシシヤモだ。和気あいあいと缶ビールのL缶と日本酒が空いていくビールがうまい！ 突然 他のグループのSトリー白州工場のA川氏からバーボンの差し入れがきた。ご馳走様です。 憩いの時間にひきつづき夕食となり 6：00消灯今晚 小屋には15人ほど泊まるようだ。お疲れ様でした。



五合上の梯子

青ツナギは七条小屋管理人

ほぼ垂直の梯子







第二小屋前で至福の時



小屋は有難い



SトリーのA氏



豪華な夕餉



A氏差し入れのバーボ

## その他の記述（L後藤）

1. 先発隊の前夕は、「尾白の湯」（一般700ー、割引500ー）に入り、気持ち良いテント泊だった。駐車場には他に誰も居なかった。トイレ完備で有難い。
2. 後発のK氏は、予定より30分早く到着した。
3. 上り始めて30分位で、Sトリーパーティーを抜いた。小屋到着は1時間以上遅かった。
4. 五合目から最初の梯子で、梯子補修の方に会った。最初、何を言っても無言だったので、七条小屋番と分からなかった。
5. 小屋番指示の第二小屋に初めて泊まったが、トイレが近くてよろしい。
7. 小屋のビアはロング700ー、日本酒一合500ー。
8. 小屋はこの時期夕食は賄ってくれるが、朝食はやらない。Sパーティーがこれといった朝食を摂らずにアツタクしたのには驚いた。

以上



七条小屋から富士山と鳳凰山・地藏岳